

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスMerci		
○保護者評価実施期間	R6年 8月 1日		R6年 8月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	R6年 8月 1日		R6年 8月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 10月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様なアクティビティ	外出イベントやクッキング、買い物シミュレーションなどを通じて子供たちの社会性やコミュニケーション能力をはぐくんでいる	過去にできたことをふまえて、さらに新しいことへ取り組む。(具体例) ミカン狩りでハイキングができた→くり拾いなど少し危険度の上がったハイキングにチャレンジする
2	支援プログラムの充実	5領域を踏まえて、月案から週案へ丁寧に落とし込みを行い、 スタッフの強みを活かした支援が行えている。 未就学児や小学生低学年など、発達段階の差が大きい ため、 活動内容やグループ分けの工夫を行っている。	支援プログラムや外出内容の見直しを含め、進歩させていく

3	安心の環境	経験豊富なスタッフが安全かつ、楽しい環境で子供たちを支えている。	子供たちの特性を見極め職員内で共有し、到達点を目標に安全に日々の療育を行っていく。
---	-------	----------------------------------	---

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	オープンから1年しか経過しておらず、保護者様からの要望への結果や子供たちへの支援の結果などのエビデンス不足が否めない	創業から間もないので事業所としての経験値が不足している	データの蓄積や個別支援計画の見直し時の保護者様との面談を通じて目標への到達度などを確認していく。
2			
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービスMerci		公表日		年	月	日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		66㎡のスペースがあり、十分なスペースが確保できている。死角になる可能性のある場所を特定し、職員を配置している			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		お預かりする児童さんの特性に合わせ、人員配置を行っている。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		トイレの入口へ暖簾をかけ、療育スペースとの隔離を視覚的に感じられるようにしている			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		テーブルの移動などで宿題スペースを確保している。また、毎日、療育スペースの清掃およびトイレの清掃を実施している。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		休憩やクールダウンが必要な場合、カーテンや衝立などを使用して隔離された場所を確保できるようにしている。			
※	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		適宜、朝礼を行い方向性や振り返りの時間にあてている			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		適宜、アンケートを実施し、利用者・保護者様の意見を伺っている			

業務改善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0%	100%	現在、外部評価は行っていない	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		外部研修期間との連携により、適宜、研修を実施している	
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		職員会議のもと、プログラムの作成や、HPでの公開を行っている	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%		個別支援計画作成時、および更新面談時、職員全員にて療育会議を行い、職員の共有事項とし個人ファイルを随時、更新している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		12の通り	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		療育前に個人ファイルをもとに療育内容、来所児童の確認をしている。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		インフォーマルな観察結果を総合的に分析し、保護者と共有するとともに、適切な支援の作成や見直し計画を行っています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%			

× 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		月1～2回、プログラム立案会議を実施している	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		月ごとに支援プログラムを刷新し、特定曜日に集中しないように1週間ごとに1日ずつずらしてプログラムを実施している	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		支援前に朝礼にて内容、連携を確認している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		その日に気付いた点は就業後、報告している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		毎日、保護者への連絡帳を作成し、それを職員全員が確認できるシステムを導入し、保護者様からの返信内容によって改善につなげて	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		適宜、モニタリング会議を行っている	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		学校への送迎の際には、適宜、担任の先生など担当者へ意見交換を行っている	

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	0%	100%		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		進学先の通級の担任などへ、連絡・確認を行っている	
	28	(28~30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	0%	100%	スーパーバイズ制度は用いていない	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0%	100%			
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		送迎の際、気になる点は常にお話させていただいている。	ラインなどを使い、状況の確認や質問など気軽に相談できる環境を整えている	

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		アプリコットなどの研修の機会の情報提供を行っている	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0%	100%	感染症対策のため、保護者会は開催しておりません。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		ラインなどを使って保護者様からのご意見や苦情について気軽に発信できる環境を構築しており、迅速な対応がとれるようにしてい	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%		定期的に活動報告書「メルシーだより」を発行している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			

	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%		同地区の高齢者デイサービスへの訪問を行っている	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		個人ファイルのTOPにアレルギーなどの注意事項を表示して、毎日確認をしている	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%			